

豊田貞宝次世代産業地区用地造成事業環境影響評価方法書についての 部会報告（案）

はじめに

豊田貞宝次世代産業地区用地造成事業環境影響評価方法書について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

事業者は、以下の事項について十分に検討した上で、適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえた環境保全措置を検討し、環境影響評価準備書（以下「準備書」という。）を作成する必要がある。

1 全般的事項

- (1) 事業計画及び工事計画の具体化に当たっては、環境の保全に関する最新の知見を考慮し、最善の利用可能技術を導入するなど、より一層の環境影響の低減について検討すること。
- (2) 調査地点及び予測地点について、その設定理由をわかりやすく示すこと。
- (3) 環境影響評価の実施中に環境への影響に関し新たな事実が生じた場合等においては、必要に応じて、環境影響評価の項目及び手法を見直し、適切に調査、予測及び評価を行うこと。

2 大気質、騒音、振動、悪臭

- (1) 工事関係車両及び施設関係車両の主要な交通ルートの周辺には住宅等が存在することから、大気質、騒音及び振動による生活環境への影響が懸念される。
このため、車両の運行計画の策定に当たっては、効率的な運行による車両台数の抑制や平準化・分散化、低公害型の車両の積極的な使用などにより生活環境に配慮すること。
また、車両の走行による大気質等への影響について、事業実施に伴う交通量を適切に設定して予測及び評価を行うこと。
- (2) 対象事業実施区域の周辺には住宅等が存在することから、工事の実施及び施設の供用に伴う大気質、騒音、振動及び悪臭による生活環境への影響について、事業計画の具体化に当たり、ばい煙の排出の低減に努め、必要な防音、防振及び悪臭対策を講じることにより配慮すること。

3 水質

工事の実施及び施設の供用に伴う水環境への影響については、天候等による日変動を考慮するなど適切に調査を行った上で、予測及び評価を行うこと。

4 地盤環境、地下水の状況

土地の改変により、雨水等の地下浸透量が変化するとともに、切土工が不透水層に影響を及ぼす可能性があることから、対象事業実施区域及びその周辺における地下水の水位、地盤環境等への影響が懸念される。

このため、専門家の指導・助言を得ながら、影響が及ぶ範囲やその程度を明確にするため、適切に帯水層構造、流動方向等の調査を行った上で、予測及び評価を行うこと。

5 動物、植物、生態系

以下の事項に留意しつつ、必要に応じ、専門家等の指導・助言を得ながら、適切に調査、予測及び評価を行うこと。

- ・ 対象事業実施区域及びその周辺に湿地湿原が存在し、動物及び植物の重要な種が生息・生育している可能性
- ・ 移動性のある動物の調査結果の妥当性を担保できる調査手法及び調査量
- ・ 対象事業実施区域及びその周辺を渡り鳥が中継地として利用している可能性があることから、種に応じた調査時間帯や調査時期
- ・ 鳥類の行動内容を勘案して予測及び評価するため、繁殖、採餌等の行動内容を含めた調査

6 その他

準備書の作成に当たっては、住民等の意見を十分に検討するとともに、分かりやすい図書となるよう努めること。

検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
令和8年5月22日	審 査 会	知事からの諮問 方法書の内容の検討 部会への付託
令和8年6月23日	部 会	方法書の内容の検討 住民意見の概要の検討 関係市長意見の検討 部会報告（案）の検討

愛知県環境影響評価審査会 豊田貞宝地区用地部会構成員

鵜飼 真貴子 名古屋大学大学院環境学研究科准教授

◎長田 和雄 名古屋大学大学院環境学研究科教授

小野 悠 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系准教授

○神谷 浩二 岐阜大学工学部教授

庄子 晶子 名古屋大学大学院環境学研究科教授

龍田 建次 愛知学泉大学家政学部教授

塚田 森生 三重大学大学院生物資源学研究科教授

横田 久里子 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系准教授

渡邊 幹男 愛知教育大学自然科学系教授

◎部会長 ○部会長代理

(敬称略、五十音順)